

日刊 動労千葉

1988.2.9
No.2755

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

松崎 革マル

を叫ぶ

大東亜共栄圏

すべての組合員のみなさん。ガタガタ鉄道労連のなかで、目にあまる資本の奴隷ぶりを鉄労とセリあっている革マル松崎は、あろうことか三千万アジア人民を殺りくした「大東亜共栄圏の構想は必要」と叫びだした。（一月八日、新春労使懇談会） 国鉄労働者を再び侵略戦争へかりたてる鉄道労連を解体せよ。

アジア侵略のオロギー
「日本民族の優秀性」

「大東亜共栄圏」という構想はそれ自体必要だと思ふ。歴史の所産としてはである。ドル経済圏に對して円経済圏というものが法的に必要なものかもしれない。日本民族の優秀性を語ることは間違ではない。このおどろくべき三〇年代の言葉を、松崎は八八年新春の言葉として叫んだのだ。大東亜共栄圏、円経済圏、民族の優秀、これこそアジア人民を虐殺し、広島・長崎へといきついた天皇性の戦争イデオロギーである。松崎は、歴史のどか、法的的だとかいってゴマ化しているが、じつさいは勝共連合に屈服し、資本の奴隷となつた革マル松崎の「思想」にほかならない。

四・一からわずか八カ月、鉄道労連はその最後の正体をあらわした。国鉄労働運動つぶしの真のねらいが、侵略戦争に労働者をかりたてることであることを。

恐慌と失業の時代、いまこそ反戦反核平和の旗をかかげて、たたかいぬこう。

ソウルオリンピックへ
「日の丸」のイベント列車

松崎は、労働運動に「日の丸」をもちこもうとやっきになっている。そこで思いついたのが、ソウルオリンピックを口実にしたイベント列車のたぐらみである。

「労働組合がソウルオリンピックを成功させようという大キャンペーンをやってもいいと思ふ」

「下関までJRで行き、釜山までは船で行き、ソウルまで汽車の旅をやりましょう」「同胞が相愛するインターナショナルイズムがヒューマニズムなどと、わめいている。

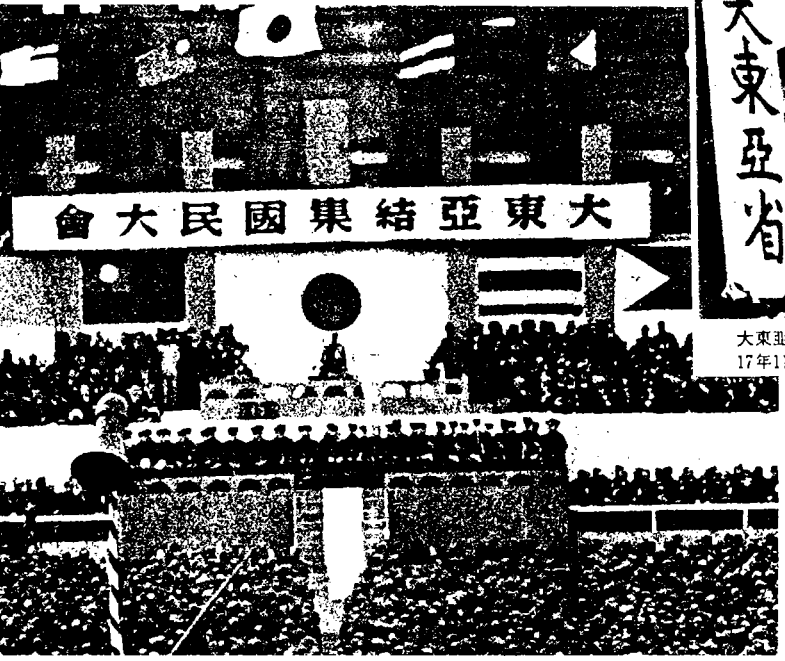
なんたるベテンだ。激動の韓国、朝鮮情勢の真只中に、オリンピックにかこつけて大量の「日の丸応援団」をおくりこむ。まるで出征兵士の「日の丸列車」とおなじ発想ではないか。

「日の丸」たかげた同胞相愛？ まさに大東亜共栄圏の侵略イデオロギーである。インターナショナルなどでは断じてない。松崎の「日の丸」労働運動を許すな。

反戦平和のとりて三里塚を守れ

日帝竹下政権は、戦争国家づくりのいっさいをかけて、三里塚軍事空港「九〇年概成」にうってでてきている。三里塚闘争に敵対し「一線を画した」動労革マルは、とうぜんの結果として、安保自衛隊承認、原発も核も賛成、日の丸かかげる大東亜共栄圏を、さけびはじめた。これはなによりも国鉄労働運動、日本労働運動への裏切りの姿にほかならない。

恐慌と戦争の危機のいまこそ、反戦平和のとりて三里塚をまもり、たたかうことが労働者人民の正義であり、生きる道である。二十二年間、不屈にたたかっている反対同盟農民と連帯し、芝山選挙勝利、二期工事阻止にたちあがろう。3・27五割動員をぜったいに実現しよう。



大東亞省設置
17年11月1日

一九四一年六月、大本營は国策の第一方針を、大東亜共栄圏の建設においた。大東亜とは、中国大陸から南太平洋、西はアラビア海に至る地域を総称したもので、この地域に天皇を中心とした「新しい秩序」を樹立することだが、大東亜共栄圏構想であった。すなわち凶悪な日本帝国主义の侵略戦争遂行のイデオロギーが「大東亜共栄圏」だったのである。